

福中通信2022

4月号



令和4年4月15日
発行責任者 市瀬 佐代

○一人ひとりみんなが主役の福井中学校

新入生を迎え、福井中学校の新しい1年が始まりました。「光陰矢のごとし。(月日の過ぎるのは、飛ぶ矢のように早い。月日のたつのが早いことのとえ。)」です。目標をもってこの一年を大切に過ごしていきましょう。1年生は中学校生活に早く慣れ、学習に生活に目標を持って行動してください。2年生は学校の中核です。先輩として、後輩のお手本となるように考え行動していきましょう。3年生は進路を考え選択していく大切な1年となります。目標に向かって計画的に行動していきましょう。みんなが切磋琢磨して、互いの良い面を認め合い、尊重し合って、いろんなことに挑戦できる福井中学校にしていきたいと思います。本年度の学校の方針を掲載します。生徒、先生みんなで素敵な学校を作っていきましょう。

福井中学校の校訓

- 自主**…「はい。やります。」から一歩進んで「自分からできることを探す。考える。」自分から進んでやれば、成果は2倍、疲れは半分。
- 誠実**…「ありがとう」「ごめんなさい」「お世話になります」を言葉にしよう。発する言葉はブーメラン。真心には真心が返ってきます。「おはようございます。」「さようなら」…自分から先に挨拶、笑顔で、目を見ながら、会釈しながら、静止して、言葉と態度で前向きな挨拶を交わしましょう。
- 協同**…「いっしょにやろう」…みんなであれば楽しさ、成果が倍増。

めざす学校像

明るく楽しく、誇りの持てる学校

学校が楽しい。福井中学校で学んで良かったと思える学校をめざします。

ともに学び合い、ともに鍛え合い、ともに伸び合う学校

わかった。できなかったことができるようになった。成長をともに認め合い、向上していける学校をめざします。

心を込めて磨き上げた美しい学校

清掃が行き届いた校舎。温かな言葉が響く学校をめざします。

・ご入学おめでとうございます。

4月11日、PTA会長様、福井小学校長様をご来賓にお迎えし、入学式を行いました。新入生の元気な返事がワークルームに響きました。

新入生代表の宣誓からは、新しい生活への意気込みと期待が伝わってきました。在校性代表の歓迎の言葉には、先輩として、新入生を仲間として温かく迎えようとする気持ちが込められていました。1年生の皆さん、これから福井中学校でたくさん学び、多くの経験を積んでいきましょう。



・転入職員を紹介します。

大きな声での挨拶、まっすぐ前を向いて入学式に臨む態度…。日々福井中の生徒のすばらしさに感動しています。どうぞよろしくお願いいたします。

日和佐中学校から転入して参りました。専門教科は英語です。授業中の大きな声での発音練習や積極的に発表する姿に感動しています。至らない点も多くあると思いますが、しっかりとがんばりたいと思います。今年度からよろしくお願いいたします。

学校用務員として1年生ですが、環境面でのリスクを軽減出来るように、衛生面、美化等に頑張りますので、よろしくお願いいたします。

子どもたちの明るい笑顔と前向きに頑張る姿に、日々元気をもらっています。一日も早く福井中に慣れ、みなさんと共に頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

春は別れと出会いの季節といえます。新たな出会いに感謝し、生徒のみなさんの健やかな成長の一助になれるよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。

本は世界を広げ時に心の支えとなる言葉にも出会え人生を豊かにしてくれます。そんな本に出会えるお手伝いができればと思います。よろしくお願いいたします。

家庭訪問(4月21日1・4区、22日2区、25日3区)

お世話になります。コロナ禍の状況の中、密にならない状況、短時間でお伺いします。お子様の健康状態や通学距離や危険な箇所等を教えていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

参観日のお知らせ

4月29日は下記の日程で行います。ご出席をよろしくお願いいたします。

授業参観	13:25~14:15
全体会	14:25~14:40
学年部会	14:45~15:05
修学旅行説明会	
(2・3年生)	15:10~15:40

【法務大臣政務官 賞】

小さな人権

福島県 須賀川市立第二中学校 1年

須田 日菜子

私には、心に決めていることがあります。それは、どんなに小さな子どもでも、大人と同じ条件で何かしようとしている時は大人と同じように扱おう、というものです。それは、私が小さなとき、あるスーパーで教えてもらったことです。

私が五歳の頃の話です。

母が不在のある日、父に連れられて幼い私と二人の妹はスーパーに買い物へ出かけました。買い物を終えたその時、母から頼まれていたティッシュペーパーボックスを買い忘れたことに父は気づきました。ところが、折悪く、小さな妹がトイレに行きたいとぐずり始めたのです。

「日菜子、お父さんの代わりにティッシュボックスを買ってくることはできるかい。」

困った父は私を頼るように言いました。

「大丈夫だよ。だからトイレに連れて行ってあげて。」

と答えた私でしたが、実際は一人でスーパーのレジに並んで会計をするなんて初めてでした。商品を見つけ、預かった五百円玉を握りしめてレジに行くと、長蛇の列です。仕方なく、並んで待つことにします。私の前に並んでいるのは、たくさんの商品が入ったカゴを持った中年の女性。後ろはちょっと怖そうな外見の男性です。大人ばかりの列に入ると、五歳の私はとても小さくて、不安気に見えたそうです。私は私で、トイレから戻ってきた父と妹たちがレジから少し離れたところで私を見守っているのを見つけ、少し嬉しくなって手を振ったのを覚えています。

しばらく待って、私の前にいた女性の会計が終わり、私はよしよ、とボックスを抱え直し、一歩前に出ようとしてしました。すると、私の後ろの男性が自分のカゴをポンとレジ台におき、

「あと、たばこ一つ。」

とレジの人に声をかけたのです。私は慌てて自分の番だと主張しようと、あの、と言いました。しかし、レジの人はそのままその男性の会計をしようとしています。私が小さくて見えなかったのかもしれないし、前後のどちらかの大人の人と一緒にいたのだのかもしれない。どちらにせよ、レジは混んでいて、周りの人たちも私のことなど気にも留めていない様子でした。私はもう一度、あの、と声を出しました。ようやく、私の存在に気づいたらしいレジの人は、

「ほらそこにいると危ないよ。早くお母さんのところに行ってね。」

と言うのです。為す術もなく周りを見回し、それから遠くにいる父に目で助けを求めようとしてしました。しかし、父も何が起きているのか気づいて

いないようなのです。このままでは私の順番は永遠に飛ばされてしまう。なんだか悔しくなって、本当に泣きそうになったその時、

「お客様の順番を間違えています。」

というはっきりした言葉が聞こえました。そのお店の名が入ったネームプレートをつけた年配の方でした。続けてその人は、私の後ろの男の人に向かって、

「すみません、お待たせして申し訳ありませんが、こちらのお客様を先にさせていただいてよろしいでしょうか。」

ときっちりと言ってくれました。

男の人は、あ、ああ、すみません、どうぞどうぞ、と少しきまり悪そうに言いました。どうやらマネージャーさんらしきその人は、次に、私に掌を向けながらレジの人に

「こちらのお客様に謝罪しなさい。」

と静かに告げました。そして、五歳の私に

「失礼な対応をして、誠に申し訳ございませんでした。」

と自ら深々と頭を下げてくれたのです。

幼かった私には、その時何が起っていたのか本当に理解していたとは言えません。ただ、周りの、レジに並んでいた人たちが大きな拍手をしていたことはしっかりと記憶に残っています。

あの時、あのマネージャーさんは、五歳の私のことを、年齢や性別に関係なく、一人のお客、一人の人間として扱ってくれたのだと思います。考えると、店のお客さんの前で従業員を叱る、というのは普通、避けたいことに違いありません。でも、それよりも、私の人権を大切にしてくれた。そのことを、私は今も事あるごとに思い出しています。

子どもだから、その存在に気づかなくても仕方ないだろう。子どもだから、こちらのミスもごかませるだろう。子どもだから、こちらが謝らなくても言いくるめてすますこともできるだろう。

全て間違いだと思えます。

五歳のある日、私がああのマネージャーさんにどんなに救われたか、その日のことがどんなに心に刻まれたか。

私は小さな子どもたちの尊厳と権利の守れる大人になりたい、と思っています。

「法務省 第36回全国中学生人権作文コンテスト入賞作品」より